

今日から始める
自然観察

雲を10種類に分けて観よう!



いわつきひであき
岩槻秀明
自然科学系ライター
気象予報士

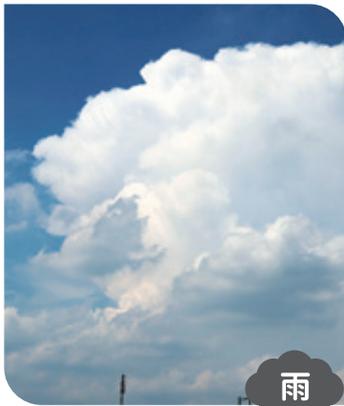
外出できない日も、空の雲はベランダからでも観察できます。その雲はどれくらいの高さを漂っているのでしょうか? どんな形? 同時に何種類もの雲が見られるときもあります。

上層雲 : 高度5000~13000m

中層雲 : 高度2000~7000m

下層雲 : 高度2000m以下

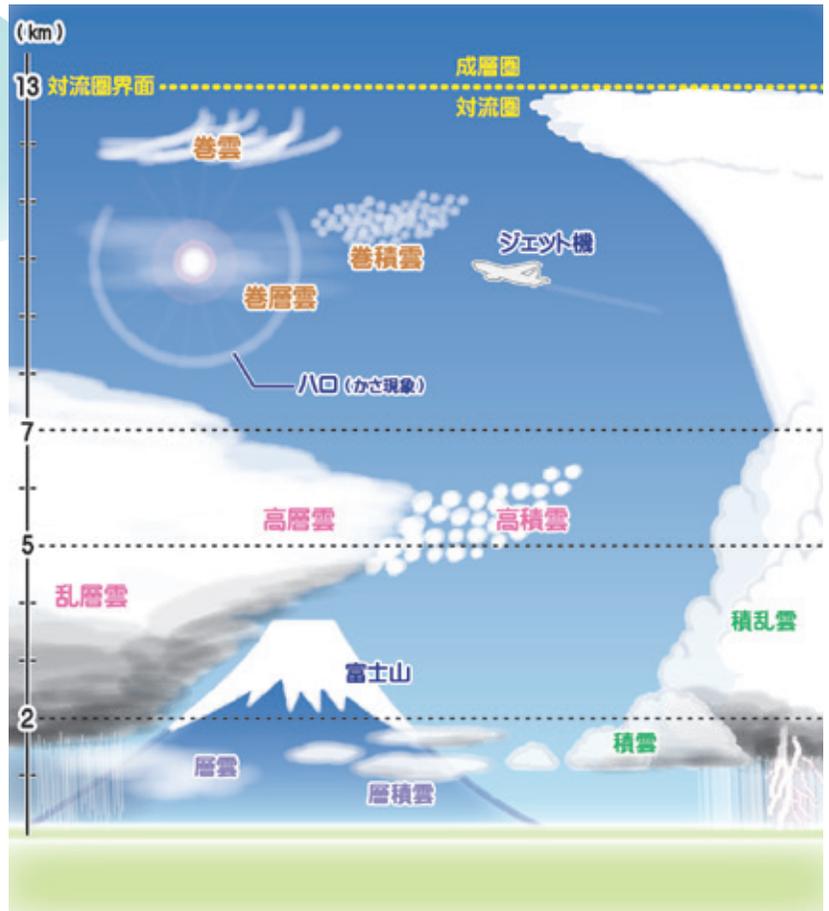
積雲と積乱雲は大気の状態によって背の高さが変わるため、対流雲として別に扱います。



雨

積乱雲 せきらんうん

別名かみなりぐも。雷、竜巻、ひょうなどの激しい現象をもたらす。雲頂は平ら、もしくは丸みを帯びる。最盛期を過ぎると雲上部がかなとこ状に広がるか、毛羽立つ。



捉えどころのないものの象徴とされる雲。いざ分類するとなるとさぞかし厄介なかと思いきや、実はすべての雲はたったの10種類(十種雲形)にまとめられます。十種雲形を基本とし、特筆すべき形状や共通する特徴から、必要に応じてさらに細かく分類します。

十種雲形は、雲の発生高度、形状、降水の有無という3つの視点をもとにしており、それがそのまま名前にも反映されています。名前の「巻」と「高」は発生高度です。また「積」はもくもくと上に成長する傾向を、「層」は横にべったり広がる傾向を表します。降水を伴うのが普通である雲には「乱」という字が使われています。ただ「乱」の字のない雲でも降水を伴うことがあります。

巻積雲や高積雲は、たくさん的小雲をびっしりと敷き詰めたような姿をしています。これは上下方向の温度差を解消しようとする発生した空気のかき混ぜ(対流)によるものです。この対流は規則正しく並び、上に向かう流れのところに雲ができるため、斑点模様になりま

高



巻雲 けんうん

別名すじぐも。空のキャンパスに刷毛で描いたような雲で、ふつう白色。かぎ針やあばらのような形になることもある。部分的に現れたハ口によって雲が虹色に輝いて見えることも。



巻層雲 けんそううん

別名うすぐも。氷晶でできたとても薄い雲で、ベールのように空を覆う。空は白くかすんだようになる。雲を通して太陽はまぶしく、ふつうハ口と呼ばれる光の現象を伴う。



巻積雲 けんせきうん

別名うろこぐも。微細な斑点状の小雲がびっしり現れ、一部がさざなみ状になることも。高積雲より小さく、腕を伸ばして小指を立てると、個々の小雲は小指からはみ出ない。



乱層雲 らんそううん

別名あまぐも、ゆきぐも。低気圧や温暖前線の近くにできる分厚い雲。雲の下では雨がしとしとと長く降り続き、昼間も薄暗い。冬は雪を降らせることも。



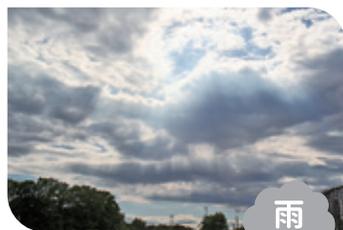
高層雲 こうそううん

別名おぼろぐも。空の広い範囲をべったりと覆う灰色の雲で、模様や色むらはあっても弱い。雲を通して太陽はおぼろげに見えるが、厚みを増すと完全に隠れてしまう。



高積雲 こうせきうん

別名ひつじぐも。典型的なものは、羊が群れたようなとか、小石を敷き詰めたような姿と形容される。個々の小雲は巻積雲より大きく陰影ができることも。



層積雲 そうせきうん

別名くもりぐも。かさばりぐも。朝と夕方に多く、陰影による色むらが目立つ。小雲の大きさや形も多様で、極めて表情豊かな雲形のひとつ。ロールパンのような形になることも。



層雲 そううん

別名きりぐも。早朝や雨天時によく見られる。とても低い位置に発生するため、ビルや山の上部を隠してしまうことも。地表に到達すると霧になる。



積雲 せきうん

別名わたぐも。もくもくとした輪郭の雲で、晴れた日の日中に多い。大きくなるとシャワーのような雨を降らす。さらに発達すると積乱雲になる。

低

す。個々の小雲はもくもくと上に成長するため「積」の字があります。

雲の正体は水？ 水？

雲を構成する粒子は、氷晶(氷の管胞、あらゆる氷の粒、水滴の3つです。

氷晶からなる雲は、太陽や月の光を屈折・反射し、ハ口と呼ばれる光の現象をもたらします。巻雲、層積雲は氷晶のみで構成される雲です。積雲や積乱雲のうち、厳冬期にできるものや、発達しきつたものの中にも、氷晶ができることがあります。その場合は、積雲・積乱雲であっても輪郭はもくもくとせず、ぼやけて毛羽立ったような感じになります。なお積乱雲の内部では、あらがが激しくぶつかり合っており、そのときにできる静電気が雷のもととなっています。

EPSON
EXCEED YOUR VISION

本コーナーは、エプソン純正カートリッジ引取回収サービスを利用されたお客様のポイント寄付によるご支援をいただいております。